

コトウ

2024.7.22

何度か、お店の前を通ったことがあった。いつぞやは、お店の裏側にある駐車場へと車を進めようとしたこともあった。しかし、断念した。私の車では、駐車場への通路がやや狭い。結局、まだお店には行っていなかった。

4月から、福島民友新聞の随想を担当することになった。執筆者が16名いる。随想は、毎週、火曜日、木曜日、土曜日と3回掲載される。他の執筆者の皆さんは、どんな文章を書くのだろうと、自然と週に3回、随想を読むようになった。

執筆者の中に、「コトウ店主」という方がいる。「ああ、あのお店だ」とすぐにわかった。そういうわけで、一度は訪れてみたくなった。今月の文章には、恩師のエピソードが載っていた。ますますお店に行きたくなった。書いている方は、どんな人なのだろうと興味が湧いてきた。

この前、ようやく行ってみた。駐車場へは、バックで車を慎重に進めた。何とか無事にとめることができた。お店に入ると、ほぼ想像通りの店主とおぼしき方がいた。お店は、1階が古書店のスペース、2階がカフェスペースになっている。

まずは、1階のブックスペースを眺めた。ご主人の好みがよくわかる感じがした。私好みの嫌いではない本の数々が並んでいた。2階に上がった。のんびりとできるようなスペースだった。どこかで見たことがあるような空間だった。思い出した。娘がまだ大学生だったときに住んでいたエリアにカフェがあった。そのお店の2階も同じような雰囲気だった。きっと趣味が似ているのだろう。

家人が、ジンジャエールをオーダーした。自家製だった。飲んでみた。あれっ、どこかで飲んだ味だった。そうである。娘が住んでいたエリアのカフェと同じ味がした。あのお店も自家製のジンジャエールを出していた。ここまで似るものなのか。

ご主人と話をした。私よりも先に家人が「この前のO先生の文章を読みました」と話しかけた。恩師とのエピソードである。私から素性を明かした。同じ随想の執筆者であることを話した。そこから、いろいろな話をした。「文は人なり」というが、随想の文章のとおりの方だった。2か月後には、県庁前通りにお店を移転するという。慎重に車を入れ、ようやく訪れることができたこのお店に来るのも最後になるかもしれない。

新しいお店も楽しみにしていることを告げ、お店を後にした。確認してみた。コトウの店主の掲載日は、私の3つ後だった。週に3回だから、1週間ほど違うだけである。掲載日が近い。親近感が湧く。これからも、店主の文章を楽しみにしたい。お店が移転しても、特製の自家製ジンジャエールがメニューからなくなることはないだろう。また、オーダーしたい。